

ただ美しいだけではない

光が街を生かす

社会をデザインする

この場所にどんな光が求められるだろう。あるときは新しいモノをより魅力的に照らし、あるときはヒトの賑わいを創り出す。またあるときは古いモノを可視化し再生する。照明の可能性は無限にある。

1962年の開通当時「東洋一の吊り橋」と称され、工業地帯として日本を代表する都市の象徴だった「若戸大橋」。近年、日本新三大夜景都市に認定された北九州市の新たな顔になるべく、2年前から段階的に始まったライトアップは2021年1月、中央ケーブルに照明が加わり光の帯が一筋に繋がった。このデザインコンセプトは「紅く燃えるトーチ」。若松側と戸畑側に立つ朱色の2本の主塔をトーチに見立てて、橋全体を光輪のごとく輝かせる。こうした設計意図をカタチに私たちのプロジェクトが始まった。

若戸大橋の最大の特徴である朱色をより際立たせるため照明デザインを手掛けた榎松下美紀照明設計事務所の色彩シミュレーションのもと、パナソニック社との共同提案により、オリジナル光色を採用、そして楕円形の配光で効率よく上空のメインケーブルを照射し、全体を照らし上げることで遠景からの視

認性を高め、近景からも優雅なラインをつくり、まちとまち、人と人を繋ぐ未来を光で演出した。シンボリックな存在としてよみがえったこの橋を改めて眺めると、見事な造形美が目がひきつけられる。

新しいモノだけではない。都市の発展とともに築かれてきた歴史的、文化的資源をライティングにより生かしていくこと。その街にはその街にあうモノを。その場所にはその場所にあう光を。灯具と光のバリエーションで風景に調和する都市景観を。表情豊かなデザインの実現により訪れた人々の思い出にも刻んでいきたい。

SDLighting
OUTDOOR + design



SHINGO
SHINGO DENZAI CO., LTD.
Group